

最終回となる今回は、これまでに紹介した「留萌を彩る6つの基本政策」の土台となる政策です。

最終回

“対話と信頼”の政策

るもいの未来図

[第5次留萌市総合計画]



“対話と信頼”の政策のシンボルである“信”(ベーシックカラー)には、選択と集中で“最少の経費で最大の効果を生み出す”行財政運営を行いながら、市民との対話により、「市民満足度の向上」を目指す、という意味を込めています。

全編は、留萌市ホームページで公開しています
<http://www.e-rumoi.jp>

市民との対話で働く市役所を目指す

市役所には、総務、企画、会計、監査などの内部管理の仕事や戸籍管理、選挙管理委員会、税の徴収、財政運営など行政の基礎となる仕事があります。また、広報や広聴、情報公開、個人情報保護など、市民と市

役所を結ぶ仕事もあります。この「対話と信頼」の政策は、こうした仕事を、6つの基本政策の土台として、「働く市役所」というテーマでまとめたものです。市役所や教育委員会など、市の実施機関の仕事の進め方や組

織運営などの面で、効率性や能率性など「生産性を高める」ことを目指し、予算や職員などの経営資源の選択と集中で、「最少の経費で最大の効果を生み出す」ように、市役所全体で取り組んでいきます。

市役所は市民から信頼され、市民の意思とともに機能しなくてはなりません。市民との対話と信頼を基礎に、窓口の対応はもちろん、情報の共有、市民の声の市政への反映などに取り組んでいきます。

基本政策の成果を測るための指標と達成目標

目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

指標名	基準値	目標値
【26】財政の健全度 経常収支比率で見る全道ランキング(道内35市中の順位)	29	18

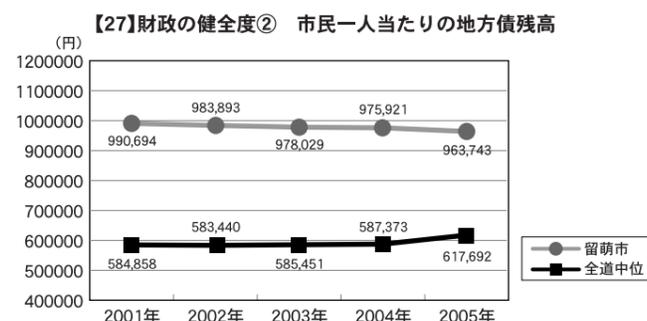
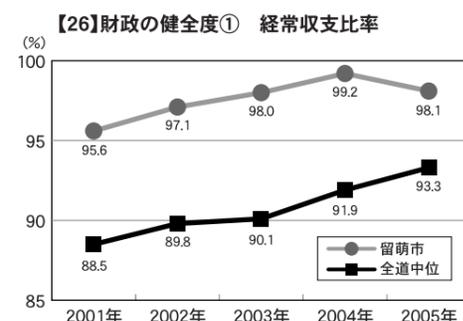
北海道庁市町村課、全道市長会調べ。「経常収支比率」と「市民一人当たりの地方債残高」で、道内都市(35市)における留萌市のランキングから財政運営の健全度合いを見る。基準値は、2005(H17)年度の順位。

「経常収支比率」は、財政の弾力性を表す指標です。人件費、扶助費(生活保護費など)公債費(借金の返済)など、義務的な経費の割合が高くなると、財政が硬直化し、市独自の政策に使える財源が限られることとなります(厳しい財政運営)。逆に、この割合が低くなると、財政運営が柔軟(良好な財政運営)になり、市独自の政策に充てられる予算が多くなります。

指標名	基準値	目標値
【27】財政の健全度 市民一人当たりの地方債残高で見る全道ランキング(道内35市中の順位)	29	18

北海道庁市町村課、全道市長会調べ。「経常収支比率」と「市民一人当たりの地方債残高」で、道内都市(35市)における留萌市のランキングから財政運営の健全度合いを見る。基準値は、2005(H17)年度の順位。

「市民一人当たりの地方債残高」は、市民一人当たりの市の借金の総額です。借金は少ないほど財政運営は健全と言えますが、大型の投資事業など借金で経費を調達することも財政運営では避けられないことです。投資事業と借金返済のバランスの取れた財政運営がポイントとなります。



指標名	基準値	目標値
【28】職員の信頼度(%)	19.0	100

市民満足度アンケート。基準値は、2006(H18)年調査の数値。今後は毎年実施し、比較する。